
由月

遠野 桜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

由月

【コード】

N0503U

【作者名】

遠野 桜花

【あらすじ】

全てが血に染まった世界で、ありもしない救いをもとめて。

……空が紅いよ？ どうしてなの？
……誰か叫んでる 煩いから殺しにいこう
……相手は年端もいかぬ女の子 ただ泣きわめくだけの彼女
私はなんのためらいもなく 大鎌を振り下ろす

少し静かになつたみたい また血で汚れてしまった
紅い空は変わらない 太陽も月も星も見えない紅い空
自分の衣服も紅く染まっていく 「壊れる」前にお母さんから買っ
てもらつたワンピース

優しかったお母さん もうお母さんはいない
「壊れた」あの時 お母さんは私を血に染めて逝つた
空も血も紅く染まり 私も紅く染まっていく
もう戻らない過去 どうして私は生き残つた？

海が見たいと思つた 茫洋と私は歩を進める
儂い希望でも 海ならまだ記憶のままに蒼いと思つたから
お母さんと一緒に走つた砂浜は 記憶のままに白いと思つたから

ビルの廃墟に 鮮やかな前衛芸術が創られる
二つに裂けた 人だつたモノ
記憶をもう一度だけ確認したくて 私は自らを紅く染めていく
もう人がどんな死に方しても 私は何も感じなくなった
零れた内蔵を 剣闘士のような編み上げのサンダルで踏み潰す
靴底から伝わる 奇妙な感触

全てが 「壊れ」 始めていた

世界が「壊れた」あの日 私はお母さんにこう聞いた

……空が紅いよ？ どうして？

お母さんは答えることなく崩れ落ちた 私を狂わせた紅い血

私は無我夢中で近くにあった鎌を振り回し お母さんを奪ったモノを切り刻んだ

お母さんの目は開いていた 血に汚れた手で私はその瞼を閉じた

お休みなさいと呟いて 私はお母さんに別れを告げた

私はお母さんの左薬指から 綺麗な水色の指輪を抜いた

お母さんが大事にしていた サファイアの指輪

全てが紅く染まった世界で それだけは蒼く光っていた

記憶の中の海 それはこのサファイアと同じ色だった気がする

コンクリートでも人間でもない感触がした 砂浜の砂だった

半ば腐ったようなモノの死体 紅い砂地の表面に、記憶の介在する

余地はない

私は記憶を確認したくて 砂の表面を削る

紅い砂地は変わらない 絶望に打ち萎れて私は海を見る

海は 赤とも紫とも言えない色になっていた

記憶の中の海は 蒼く澄んでいたはずなのに

呆然と 私は地べたに座り込む

金属の当たる音がした 私は大鎌を構えて辺りを伺う

私を通った階段から 一人の少女が降り立った

視線が合った 静かに少女は私に近づく

私は構えた大鎌を下ろす 少女を斬ることができないような気がし

たから

とうとう少女は 目の前にまで近づいてきた
少女は謡う 何かを断罪するかのように

あなたは過去を殺した 生きるためと言う理由で
だけど こんな世界でどうしてそんなに足掻くの？
理由なんてない ただ生きているだけ
襲う必要もないのに 彼女を襲ったのは
あなたが 過去に耐えられなかったから
耐えられないのなら 一緒にこの世界から消えましょう？
お休みなさい 由月

一瞬のことだった 金属の刃が私を貫く
これが 望んでいたことなのかも知れない
お母さん こんな私でいいのなら

せめて ずっと一緒に暮らしたい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0503u/>

由月

2011年10月7日20時50分発行